

出演

石津雄司
榎本雅之
大西薫
富山華佳
永島将伍
八戸舞実
安達舞
新垣亘平
今井海斗
川本菜奈
永瀬巧真

(学籍番号順)

チューホフの『三人姉妹』を最初に読んだのは確か二十代前半、つまり私が今大学で接する学生たちとほぼ同年代である。正直当時は、なにゆえ先行世代がこれを“名作”と称するのか皆目見当つかなかったし、それを教授された記憶もない。教授する側から言えば、そもそもそれをどう教授するのか？とか、そもそもそれは教授すべき性格のものなのか？とか、そもそも“演劇”を“教授”するって一体なんだ？という具合に話があらぬ方へ拡大するし、学ぶ方は学ぶ方で今更「チューホフってどこがすごいんですか？」とはなんとなく聞けない変な自意識もあるから、まあ基本事項として当然ですよなんて顔つきを心がける（かあえて罵倒するか）。結局どうなるかというところ（本当はよくわかってないんだけど、とにかく）これは“名作”だ」という、なんだかよくわからない漠然とした了解事項（＝“権威”）だけがなんとなく蔓延することになる（“罵倒”も一種の権威主義だ）。因みに私たちのこうした態度を『三人姉妹』の一登場人物であるチェブトイキンが「なんて俗悪な！ 卑劣なことだ！」（新潮文庫／神西清訳 P218）と罵倒した（チューホフが罵倒しているかどうかは別にして）。そう考えるとチューホフに限らず、巷では「なんだかよくわからない漠然とした了解事項」のみで創られる芝居のなんと多いことか。観劇後に創作者側の人間と酒を酌み交わす機会は多いが、話をしているとチェブトイキンほど激怒はしないが、「あれ？ もしかしてわかってないのか？」と“ガッカリ”する経験は多々ある（「わかってない」とは別に“正解”をということではない。念のため）。

一応ここが「演劇」を学ぶ場所である以上、またこっちも教授する立場の人間である以上、チェブトイキンの言うクラブで出会った「俗悪」で「卑劣」な連中にはなりたくない。だからといって私はこの〈上演〉を単なる“教授の場”とはもちろんしたくない。なぜ今チューホフなのか？ なぜ若い世代のチューホフなのか？ それは私が、へたな先行世代よりも実は今の二十代の方がチューホフの〈本質〉を感覚的に〈感知〉する能力に長けているのではないかと密かに期待しているからである。

劇作家／演出家

桜美林大学芸術文化学群准教授

演劇企画集団 THE・ガジラ主宰

鐘下辰男

日程

2017.12.17(Sun)-12.24(Sun) 全 10 ステージ



会場

桜美林大学 PRUNUS HALL

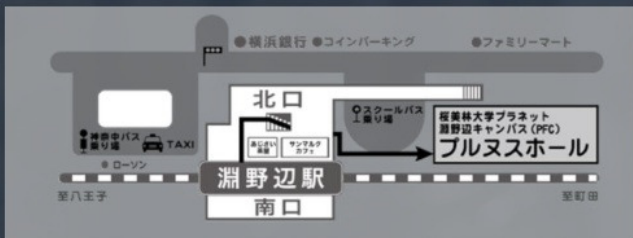
〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺 4-16-1

桜美林大学プラネット淵野辺キャンパス（PFC）内 1 階

※JR 横浜線「淵野辺」駅北口より徒歩 1 分

※当劇場には駐輪・駐車スペースがございません。

自転車や自動車でのご来場の際は近隣の駐輪場、またはコインパーキングをご利用ください。



料金

	【前売り】	【当日】
一般	1300 円	各 200 円増し
学生	1000 円	【リピーター割】
高校生以下	800 円	当日券含め一律 500 円

※高校生以下・学生（専門学校生・劇団研究生含む）の方は

当日受付にて学生証をご提示いただきます。

※未就学児のご入場はご遠慮いただいております。

※芸術地域通貨 ARTS 使用不可

チケット予約・お問い合わせ

2017 年 10 月 17 日(火)よりチケット予約受付開始

FAX・Eメールでのご予約の場合

①お名前(フリガナ) ②ご連絡先のメールアドレス

③観劇希望日時 ④券種 ⑤枚数 ⑥備考 を

下記の連絡先までお送りください。

※こちらからのご予約確認の返信をもって、ご予約の完了とさせていただきます。

OPAL vol.6 制作部

【TEL/FAX】 042-704-7013

(TEL/平日 18:00~21:00 FAX/24 時間)

【Eメール】 kanesita_opal@yahoo.co.jp

【WEB】 http://www8.obirin.ac.jp/opai/opap.php

スタッフ

舞台美術 | 伊藤鈴蘭 照明 | 露崎嘉一 照明操作 | 富田桜 音響 | 安藤あゆみ 音響操作 | 萩原麻緒

衣裳 | 藤田実優 小道具 | 山根瑠梨 舞台監督 | 三木春花 舞台監督アドバイザー | 矢野森一 演出助手 | 中山美里

宣伝美術 | 西山梨香 制作 | 太田千恵子



桜美林大学パフォーマンス・レッスンズ＜OPAL＞とは、桜美林大学芸術文化学群演劇専修が授業の一環としてプロデュースし、その芸術教育の成果を地域の力をはじめ、広く一般のお客さまにも開いていく舞台公演です。第一線で活躍する演出家や脚本家の下、学生がキャストとスタッフをつとめ、発表会の域を超えた高いレベルの作品創りに挑みます。将来、舞台芸術の世界はもちろん、さまざまな社会へと飛立つための人間力を磨く＜レッスン＞の成果をお届けいたします。

主催 | 桜美林大学

企画制作 | 桜美林大学芸術文化学群演劇専修